様式３

会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		第９回　中山間地域医療検討会		
事務局 （担当課）		医療政策課　　電話０４２－７６９－９２３０（直通）		
開催日時		令和８年１０月６日（火）　１９時００分～２０時３０分		
開催場所		ウェブ開催　及び　津久井総合事務所３階会議室		
出席者	委　員	１３人（別紙のとおり）		
	その他	０人		
	事務局	９人（別紙のとおり）		
公開の可否		■可　□不可　□一部不可	傍聴者数	０人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議　題		１　開会 ２　委員紹介 ３　相模原市健康福祉局長あいさつ ４　市職員紹介 ５　議題 （１）会長・副会長の選任について （２）情報提供 ア　中山間地域 医療・介護連携支援窓口 イ　訪問型オンライン診療の本格実施 ウ　相模原市コミュニティバス「さがくる」の利用促進 エ　国民健康保険内郷診療所の診療体制 （３）検討会での議事事項について ア　市所管診療所の在り方 ６　閉会		

議　事　の　要　旨

1　開会

2　委員紹介

3　相模原市健康福祉局長あいさつ

4　市職員紹介

5　議題

（1）会長・副会長の選任について

互選により、会長　：金子委員

副会長：森田育子委員が選任された

会長・副会長あいさつ

（金子会長）

６月から北里大学に着任し、実際に中山間地域の施設を見学に行ったり、診療所で働いてる医師との振り返りを通じて地域の様子を今までよりも肌で感じている状況だが、まだまだわからないことも多くあるので、皆さんに教えていただきながら、中山間地域の医療や介護・福祉をよりよい形で一緒に考えたい。

（森田副会長）

前回の任期に続き、副会長を務めさせていただく。地元で勤務している薬剤師として、患者からの話を日々聞いているので、そういった声も参考にしながら、地域医療に役立てていきたい。

（2）情報提供

ア　中山間地域 医療・介護連携支援窓口

事務局より資料に基づき説明

（森田亮委員）

森田病院で在宅医療介護連携支援コーディネーターを担当することになった。長年地域の窓口として活動してきたスタッフが対応し、地域の困りごとを受け入れて、入院や在宅ケアに繋げていく。院内で話し合いを重ね、不安もあるが、精一杯取り組みたいと考えている。コーディネーターが全てを引き受けるのではなく、地域の協力が不可欠。限られた資源の中で皆で協力しながら実施したいと思うので、皆様にも協力をお願いしたい。

（土肥委員）

森田病院はこの地域にはなくてはならない大切な医療機関である。すでに多くの在宅や外来の患者も森田病院にはかかっている。

内郷でも訪問診療をやっているが、患者家族からはいざという時に入院できるところにかかりたいという希望を聞くこともあり、長年、内郷に通っていた方でも、森田病院に転院するケースも最近、増えてきている。

地域包括支援センターだけではとても担いきれないくらい、地域の様々な困り事ございますので、今回の取り組みはとても心強い。

（金子会長）

森田病院だけに任せるのではなく、地域で協力していくのは大事だと思う。

（森田亮委員）

是非、皆さまで協力して良い医療関係を作り上げていければと思うので協力いただきたい。

イ　訪問型オンライン診療の本格実施

事務局より資料に基づき説明

（森田亮委員）

訪問型オンライン診療の時の保険点数や算定内容はどのような形か。また、運転士や看護師にはそこから給与が支払われるのか。

（事務局）

保険の診療点数は、オンライン診療は訪問診療の一部としても実施することもできるが、市が実施していてるのは、外来診療の一つとして実施をし、診療点数を算定している。

運転手や看護師の給与については、診療点数から算定した金額を基にしているのではなく、市職員の人件費としてお支払いしている。

（森田亮委員）

オンライン診療では、外来診療と同じ点数の算定は難しいと認識しているがその辺りを伺いたい。

（事務局）

確認後、改めて回答させていただく。

（小川委員）

令和６年度と令和７年度でオンライン診療の令和７年の人数が大分減っているが理由は何か。

（事務局）

令和６年度はオンライン診療を試験的に実施し､対象者も広く設定して行ったが、令和７年度は、より実態に即した必要度の高い患者に対象を絞り込んだため、利用人数が減少した。

（小川委員）

原則として患者は自宅内となっているが、当初、車の中で実施すると聞いていたが、車の中での実施は抵抗があったのか。

（事務局）

当初は大型車両での実施も検討していたが、地理的な状況で乗用車サイズの車両

で実証事業を開始した。そうした中で車両が、少し手狭であり、患者とも相談し、自宅内を基本とした。

（小川委員）

車両は四輪駆動か。中山間地は降雪などで二輪駆動だと厳しい。実証事業ではどのような車両を使っていたのか。

（事務局）

現在は、スズキのソリオという車種で実証を行っている。降雪や路面凍結の際には、患者と調整して個別に対応を行っている形である。

（小川委員）

四輪駆動は必須になると思うのでぜひ検討いただきたい。

（事務局）

来年度の本格実施に向けての車両選定では四輪駆動車ということも検討していきたい。なお、車両の選定にあたっては、ご自宅での診療を希望されない方にも対応できる車両であることも必要となるため、そういった要素も踏まえ検討していく。

（黒沢委員）

訪問型オンライン診療について、個人の自宅で実施するものと公民館での実施のものがあるとのことだが、内訳を知りたい。

また、薬の受け取りについて、薬局での直接受け取り、または配送ということになっているがどちらの方が多いか把握しているか。

（事務局）

公民館での拠点実施については、昨年度２件実施をしたが、天候等の関係もあり、数名の参加というところで、現状、拠点でのオンライン診療は、ほとんど実施していない状況である。

薬の受け渡し方法については、現状、把握できていないため、改めてお伝えさせていただく。

（黒沢委員）

公民館だけでなく、過去にはデイサービスなど人が集まる場所という意見もあったので、工夫してやれるのかなと思う。

（石橋委員）

訪問診療においては、地域の特性から四輪駆動車の導入が必要不可欠であり、医療スタッフが安心して訪問できる環境整備が必要だと考える。藤野地域の道路状況もあるため、地上最低高が低すぎる車は車体を擦る可能性がある。低床であるに越したことはないが、低床車でないと乗り込めないような患者はそもそも家から出ることが困難であると考えられることから、そこまで低床にこだわらなくてもよいと思う。再編後の体制では医師が２名となる一方で、看護師はどのような体制となるのか。また、訪問看護については経営面も含めて今後の課題として検討すべきであ

り、外来看護師がすぐに訪問看護に対応できないが、長期的な視点で検討していく必要があるが、その形態には大きなメリットがあると感じている。

（事務局）

看護師の体制については、内郷診療所を例にすると、現在、医師１人に対して看護師が３～４名の体制で運営しており、医師が１名増えることにより、看護師も１名増員することとしている。医師２人での診療を重ねていき、必要があれば看護師の人数の増員も検討する。

（金子会長）

訪問診療で使用する車両は市役所などに停めて、使う時に診療所へ向かう形か。

（事務局）

内郷診療所に駐車しており、そこを拠点に各診療所へ向かい、看護師と合流し患者宅へ向かっている。

ウ　相模原市コミュニティバス「さがくる」の利用促進

事務局より資料に基づき説明

（小川委員）

高齢者が多い地域だが、PASMO や Suica の電子決済は慣れていて使えるのか。また、読み取り機械の通信環境は大丈夫なのか。

（事務局）

神奈川中央交通のバスも同様の電子決済を使用しているため、高齢者の利用や電波状況も問題がないものと認識している。

（小川委員）

現金も使えるのか。

（事務局）

現金も使える。いろいろな世代に使いやすい環境づくりとして取り組んでいるところである。

（森田亮委員）

今回のさがくるのキャンペーンは中山間地域が含まれているのか。

（事務局）

中山間地域を対象とした取組であり、実績も中山間地域を全て含んだものとなっている。

（森田亮委員）

当院でも相模湖駅から森田病院までの無料の定期便を出したが、予想より利用者数がかなり少なく、利用者のいない時間帯が相模湖駅で多かった現状があったので聞いたところである。

（事務局）
　詳しい地域ごとのデータは承知していないが、地域によって差があったということは担当部署より聞いている。

エ　国民健康保険内郷診療所の診療体制

事務局より資料に基づき説明

（小川委員）
　千木良診療所の閉院の話が出た際に、地域から大分意見が出たと思うが、地域の皆さんはすぐに賛成してくれたのか。
（事務局）
　診療所は地域にとって非常に重要なものということで地域の方の思いもあり、何度も説明会を重ね、内郷診療所に統合することにより、出向く医療を充実させていくということの説明をして、理解をもらったところであるが、依然として存続を希望する方もおり、その方達とは対話を重ねているところである。
（小川委員）
　森田病院で送迎車を出していると聞いたがそういったことはあるか。
（森田亮委員）
　４年前から無料送迎を行っている。この地域は高齢化で外来はできるが、免許返納やバスの減便が進んでいるため、患者宅と病院間を送迎している。
　需要が多ければ、定期便の運航を考えて、試してみたが利用者数が少ないという状況であったため、現在は電話予約で対応している。ドライバーが空いていれば当日の予約にも対応している。
（小川委員）
　感謝している人がいるのでこれからも是非お願いしたい。
（土肥委員）
　これから水曜日を開設することになることは地域にとってプラスになると思う。現在、内郷へ通ってくる患者は私に診てもらいという患者が大半だと思うので、医師２人体制となった時の患者の振り分けをどうするか考えている。
　また、千木良診療所に通っている患者で内郷診療所に来る患者は、相模湖駅前の原田医院や梶原医院の方が距離的にも近いこともあり、意外と少ないのではないかと思っている。
　こういった状況で、医師２人体制となり、かなり余裕が出てくる可能性があるので、超音波画像診断装置を新しく入れ、若い医師に診療技術を習得してもらいたいと考えている。
（金子会長）
　現在、千木良診療所に勤務している医師は修学医師であり、患者の意向を確認し

て紹介状を発行する準備をしている。原田医院や内郷診療所などへ紹介状をもって患者が行くのでよろしくお願いしたい。

（３）検討会での議事事項について

ア　市所管診療所の在り方

（宮内委員）

藤野診療所の場合、日赤から先生が来ているが、頻繁に交代がある。カルテ等できちんと引き継いでもらっていると思うが、患者としては「また先生変わってしまった」と感じることも多い。これから２人体制になった時に、どのような形で、配属されるのかが利用している者としては、一番気になるところだと思う。その辺りはどうか。

（金子会長）

藤野診療所は相模原赤十字病院が管理しているが、医師については、北里大学の修学医師を派遣する形となっている。現在、修学医師の所属の関係や研修、専門医の資格取得などのため、診療所の勤務が１年単位、場合によっては半年単位になっていた経緯がある。

ただ、患者にとっては同じ医師が長くいてくれた方が良いというのは、とても理解できる。修学医師の中でも２年、３年と長く診療所で勤務したいという医師もいるので、研修等の状況やほかの医師とのバランスも意識しながら、市や修学医師と議論している。現状としては必ず「１年でなく２年、３年いる」ということは言えないが、地域に腰を据えてやっていきたいという医師もいるため、そういった医師が力を発揮できるようにしていきたい。例えば、医師２人体制となった際には、１人は２年いて、もう一人は１年で代わるなど、患者にとって継続性を保てるようにしていきたいと考えている。

また、どうしても若い医師は何年かで代わってしまうので、毎日は難しいが、指導のために、週１回中堅やベテランの医師が勤務するという形を考えている。そのような医師が診療所のことを把握しながら、週１回だが継続して来ることによって、看護師や事務員を含め、継続性を持って診療できるようにしていく体制にしていきたいと考えている。

（石橋委員）

すでに何度も伝えているが、大事なことなので繰り返させてもらうが、診療所の医師は内科の医師が来ることが多いが、小児科など専門外の患者に関しても、出来るだけ診てもらいたいと地域住民としてお願いしたい。もちろん、専門外で責任をもって診れないという医師の裁量もあるとは思うが、地域に住んでいる身としては、門前払いされてしまうのは、非常にありがたくないことなので、積極的に診てもらいたい。

今は違うかもしれないが、以前、藤野診療所では午後の診療開始の１５時より前に行くと、炎天下でも診療所の中に入れてもらえず、外で待っているということを何度か耳にした。もちろん診療所のスタッフも休憩は必要なのでそこは確保しながら、外で待つということを避けられるような体制にしてもらいたい。

地域に医師が住んでくれているということは、非常にありがたいことなので、診療所に勤務する医師が、住みたくなるような住宅を準備して欲しい。

２人体制となったら１人は週一日勤務する医師でも構わないので、５年はいて欲しいと思っている。

（金子会長）

診療所において、小児や軽度の外傷など幅広い対応ができるようにしたいと思っているので、週１回、診療所の医師達をオンラインでつなぎ、困ったことや対応が難しかった事例を共有して、医師同士で情報や対応方法の共有を行っている。また、１０月か１１月から内科以外の対応に関しての勉強会を週１回、外部の先生と連携して実施し、診療所の医師に参加してもらう予定である。まずは「一度は診る」という姿勢は大切だと思うので、そのマインドで取り組んでいきたい。

（事務局）

診療所外で待つことになったということに関して、承知していなかった部分ではあるが、診療所スタッフの休憩時間を確保しつつ、来院する患者も体調が悪かったり、不安もあってこられると思うので、指定管理者と情報共有しながら、良い形に調整していきたいと思う。

また、医師が住みたくなるような住宅の整備については、ご意見として預からせていただくとともに、一人の医師が長く勤めることについては、地域だけでなく現場スタッフからもそういった声がある状況であるため、他の修学医師とのバランスなど整理しながら検討を続けていく。

（土肥委員）

内郷診療所では患者さんが昼休みも待合室にいる。特に夏場は涼みに来る方も多かった。午後の受付開始が１４時３０分、診療開始が１５時だが、早い人などは１２時位とかなり早く来て、涼みながら待っている人もいる。スタッフは交代で休憩を取りつつ、常に誰かがカウンターにいる体制をとっている。

また、小児診療について、私はもともと外科で手術や内視鏡が専門だが、診療所勤務後は 0 歳・1 歳の小児診療や予防接種も行うようになった。地域の小児救急当番も担当し、医師の生涯教育として努力をして小児対応を学んできた。今では、西メディカルでも小児を断らず診療している。正確な診断や具合の悪い子を最後まで診なくてはいけないということはなく、小児科専門医につなぐことが重要で、トリアージと適切な連携で対応可能と考えている。

実習医には小児の診察方法を伝える努力をしているが、実習期間が短いため十分

に伝えきれない課題がある。ロールプレイなどのプログラムもあり、0 歳から 100 歳まで幅広く診る教育の必要があると思っている。ぜひ、北里大学にも協力していただき、子供を断らないようにしていきたい。内郷診療所へ研修に来た医師にはそういったことも伝えていきたい。

（金子会長）

診療の幅を広げることは非常に重要で、まずは一度患者さんを診て何ができるか考えることが大切。大学病院での研修ではこうした経験が得にくいため、それ以外の部分で補完していくのは自分の役割だと考えている。

土肥先生のところで学んだ医師は、また別の診療所に行くことになると思うので、そういう形で地域全体でできるようになると良いと思う。引き続き、皆さんからもご意見やアイデアをいただければと思う。

（坂口委員）

島根の事例となるが、島根県の人口減少や中山間地域の医療課題として、民間診療所が高齢で閉院し、2020 年に市町村・行政と協議の上、公立病院の附属診療所に転換された。

この過程で雇用や財政問題など、避けて通れず、綺麗ごとだけではいかないこともあった。当然、住民など関係者は閉院を強く拒否した。そういった中で透明性をもって誠実に議論を進めることが重要と感じた。

誠実な取り組みを続けることで医師だけでなく多職種の協力も得られるようになり、綺麗ごとばかりではなく現実的な議論が大切だと思った。

（金子会長）

他の地域の取組を参考にするのは選択肢が増えるし、非常に大切だと思う。今後も様々な取組を教えてもらえればと思う。

また、先ほど石橋委員から話のあった藤野診療所の昼休みの件について、現在勤務している医師に確認したところ、昼休みの時間で訪問診療や予防接種をしたりするが、そういった時は中で待ってもらっているとのことであった。ただ、昼休みの早い時間帯に来て、重症でなく、家に帰れる人については一度家に帰っていただく話をすることもあるとのこと。今後、診療所の看護師などともどういう運用にしているか話を聞いてみたいと思う。

（黒沢委員）

今回の資料は報告の際にコピーして渡しても問題ないか。

（事務局）

資料の開示は問題ありません。

６．閉会

（森田副会長）

皆様、長時間にわたり活発な意見に感謝する。昨年から引き続きやっている中で、色々と皆さんで話をする中で、その都度、問題や課題が出てくると感じた。

今後も活発なご意見をいただき、より良い医療につなげていけたらと思う。

以上

中山間地域医療検討会　委員出欠席名簿

（五十音順）

氏　　名	選　出　団　体　等	出欠
石井（いしい）　冬樹（ふゆき）	相模湖地区地域ケア会議地域づくり部会	欠席
石橋（いしばし）　了知（りょうち）	藤野地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
小川（おがわ）　邦生（くにお）	津久井地区地域ケア会議地域づくり部会	出席
長内（おさない）　浩美（ひろみ）	公募委員	欠席
金子（かねこ）　惇（まこと）	学識経験者	出席
黒沢（くろさわ）　愼五（しんご）	さがみはら介護支援専門員の会	出席
坂口（さかぐち）　公太（こうた）	学識経験者	出席
土肥（どい）　直樹（なおき）	相模原市立国民健康保険診療所	出席
西嶋（にしじま）　久美子（くみこ）	相模原市訪問看護ステーション管理者会	出席
西山（にしやま）　保比古（やすひこ）	相模原市立診療所の指定管理者	出席
原田（はらだ）　工（たくみ）	相模原市医師会	出席
布施（ふせ）　厚子（あつこ）	相模原市歯科医師会	出席
宮内（みやうち）　知子（ともこ）	公募委員	出席
森田（もりた）　育子（いくこ）	相模原市薬剤師会	出席
森田（もりた）　亮（りょう）	相模原市病院協会	出席